

学習者の「ところ」表現の習得に関する一考察

－ JFL 韓国人学習者の使用実態を中心に －

黄允實*
hwangsys@gmail.com

<目次>

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. はじめに | 4. 韓国人学習者の「ところ」表現の習得 |
| 2. 先行研究及び本稿の立場 | 4.1 学習者の「ところ」表現の使用実態 |
| 2.1 「ところ」の用法 | 4.2 STとSWにおける使用状況 |
| 2.2 「ところ」表現の習得に関する研究 | 5. おわりに |
| 3. 言語資料及び分析方法 | |

主題語: 「ところ」(TOKORO)、非用(non-use)、複文(complex sentence)、JFL 韓国人学習者(Korean learners of Japanese as a foreign language)、多言語母語の日本語学習者の横断コーパス(I-JAS)

1. はじめに

「もの」「こと」「ところ」のような形式名詞は日本語初級の段階から登場する。これらは意味的に抽象化し、様々な文法的な機能を果たす形式へ発達しているが、そのような用法については中上級の段階で学習することになる。

これらのうち、「ところ」は初級日本語教材に早くから空間を表す名詞として登場し、学習者にとっては容易に習得できる語の一つである。初級の段階ではまず名詞的用法から文末用法を、中級になると、接続助詞表現を活用した複文練習、文をつなぐ接続詞、その他の語彙的表現などを学習するようになるが、レベルが上がるにつれ、空間から時間の意味への転用や多様な用法の習得には困難を覚える学習者が増えていくようである。また、中級以上のレベルになると、初級では学習していなかった用法や表現が次々出てくるが、各用法を中心に指導されることが多く、初級の既出項目にはあまり触れずに、個別の新しい文型の習得に重点がおかれる傾向がある。

* 韓国外語大学校 通翻訳大学 日本語通翻訳学科 講師

これまで「ところ」表現については日本語学の観点から数多く研究がなされており、その多くは意味用法の分類が中心であった。多様な用法が学習者にどのように習得されているのか、またどのように定着しているのかなどについてはあまり目を向けてこなかったように思われる。日本語教育としての文法指導を考える上では、学習した表現がどういうふうに出産されるのか、実際に正しく使えているのかなど学習者の使用状況をまず確認する必要があるだろう。

よって、本稿ではI-JAS(『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』)を利用し、韓国人日本語学習者のデータと日本語母語話者のデータを比較しつつ使用実態を観察することにする。その結果をもとに、運用上の問題点や指導時の留意点についても考え合わせることにしたい。

2. 先行研究及び本稿の立場

この節ではまず「ところ」の用法を整理しておく。従来の研究のうち、寺村(1993)、グループ・ジヤマシイ編(1998)、日本語記述文法研究会編(2008)に従い、「ところ」の各用法の具体例を示しつつ本稿の考察対象について述べることにする。また、「ところ」を含む表現の習得に関する研究についても簡単に取り上げることにしたい。

2.1 「ところ」の用法

2.1.1 名詞的用法

寺村(1993)では、実質名詞としての用法というのは、その後の助詞をいろいろにいいかえたり、「私の」を「太郎の」その他に入れかえても、その意味は一定しているということである(p.327)と述べ、次のような例を挙げている(p.327、例(1)(3)(4))。次の例では「ところ」は空間のある一点を指している。

- (1) ここはコピーをとるところです。

1) 本研究は、国立国語研究所のプロジェクトによる成果『多言語母語の日本語学習者の横断コーパス：I-JAS』(および検索システム)を利用して行われたものである。言語資料については本文で後述する。

- (2) 何かあったら、私のところへ来なさい。
- (3) 父は朱筆をとって、ただ一ところ、ことばをあらためた。

さらに、「ところ」が名詞や副詞と結びついて名詞句を構成し、「今のところ」「実のところ」のようにそれ全体が副詞的に機能する場合がある²⁾。このような語彙的な表現も本稿では名詞的用法に含めることにする³⁾。

- (4) 「ダイアーズバーグ警察で当直に当たっているみなさんは、おまえの居場所をぜひ知りたいと思ってるはずだ。みんながおまえの安否を気遣ってるんだと聞いたら、悪い気はしないよな。とりあえず今のところ、それは間違いない」 (死影)
- (5) ただし、エフェが「レタ」としてなにかをもってきて、帰りに村人も農作物を「レタ」することはよくある。このばあい、形式的には物物交換とおなじになるが、内容的には異なっている。その場かぎりの交換は、実際のところ、それほど多くはない。 (共生の森)

2.1.2 文末用法

「ところ」は意味的に抽象化し、特定の構文的機能を担う形式へ移行するが、そのうち、<事態の局面>を表す「Vところだ」のような文末助動詞化したものを文末用法とする。これには「V-たところだ」「V-ているところだ」「V-ていたところだ」「V-るところだ」の4形式があり⁴⁾、動詞に付いて場面・状況や出来事がどのような進展の段階にあるかを報告するような場合に用いられる(グループ・ジャマシイ編1998:331)。まず、「V-たところだ」は動作・変化がその「直後」の段階にあることを表し(p.331)、「V-ているところだ」は動作がその「最中」の段階にあることを表す(p.332)。「V-ていたところだ」は以前から文の表す時点に至るまでそのような状態が続いていたことを表し(p.332)、「V-るところだ」は動作や変化がその「直前」の段階にあることを表す(p.332)。他にこれらに準じて文末に用いられる表現も対象に含めることにする。

- (6) 今帰ってきたところです。

2) 名詞句を構成する「ところ」については黄(2021b)を参照されたい。
 3) 本文で挙げるI-JASの用例以外の例文は国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)から採取したものである。
 4) 寺村(1993)では、「アスペクトを表しているのは「ところ」の前の四つの動詞の型であって、「ところだ」はそのいろいろなアスペクト的な事実の認定を承けて、やはり、前後の文の流れ、あるいは事態・状況の中で、現在に焦点を当てるといった含みを表すのがその機能だ(p.335)」とされている。

- (7) ただ今電話番号を調べているところですので、もう少々お待ちください。
- (8) いい時に電話をくれました。私もちょうどあなたに電話しようと思っていたところなんです。
- (9) これから家を出るところですから、30分ほどしたら着くと思います。

2.1.3 接続助詞的用法

2.1.3.1 順接節の場合

接続助詞的用法は順接節と逆接節に大別することができる。接続助詞的用法では「ところ」「ところを」「ところで」「ところが」のような形で用いられるが、このうち、「ところで」「ところ(が)」は時間節だけでなく、逆接節としても使用される。順に具体例を見てみよう。

グループ・ジャマシイ編(1998)では順接の「ところ(が)」は動作を表す動詞のタ形に付いて、後に続くことがらの成立や、発見のきっかけを表す(p.328)とし、前後にくることがらには直接的な因果関係はなく「...したら、たまたま / 偶然そうであった」という関係であり、後に続くことがらは前の動作をきっかけに話し手が発見した事態で、すでに成立している事実の表現が用いられる(p.328)と述べている。

- (10) 先生にお願いしたところ、早速承諾のお返事をいただいた。

また、「V-たところで」の形で「前の動作・変化が終わり一区切りがついた時点で、後の動作・変化が起こる(あるいは起こす)」という意味を表す(pp.333-334)と述べている。

- (11) 論文の最後の一行を書いたところで、突然気を失った。

「ところに / へ」は「ある段階における状況を変化・変更させるような出来事が起こることを表す場合に用いる(p.334)」とし、たいいていはものごとの進行を妨害・邪魔するような出来事が多いが、現状をよい方向に変えるような場合もある(p.334)と指摘している(p.334、例(1)(3))。

- (12) 出かけようとしたところに電話がかかってきた。
- (13) 財布をなくして困っているところに偶然知り合いが通りかかり、無事家までたどり着くことができた。

「ところを」については「前後に動詞を伴い、前の動詞によって表されている状況の進展に

対して、直接的な働きかけを与えるような動作が後に続くことを表す(p.335)」とし、後続の動詞としては「見る」「見つける」「見つかる」「発見する」といった、視覚や発見の意味の動詞や、「呼び止める」「捕まえる」「捕まる」「襲う」「助ける」など、停止・捕捉・攻撃や救助といった意味のものが用いられる(p.335)と述べている。

(14) 駅前を歩いているところを警官に呼び止められた。

2.1.3.2 逆接節の場合

逆接節には「ところで」と「ところが」がある。グループ・ジャマシイ編(1998)は逆接を表す「ところで」について、「a V-たところで…ない」と「b V-たところで」を取り上げている(p.334)。「a V-たところで…ない」は「そのような行為をしても期待する結果が得られないことを表す」もので、結果の部分は述語のナイ形や、「無駄だ/無意味だ」というような否定的な判断や評価を表す表現が用いられるが(例15)、「b V-たところで」は「後に少ない程度を表す表現を伴い、「仮にそのようなことが起こった場合でも、その程度・量・数はたいしたものではない」といった意味を表す(例16)と述べている。

(15) いくら頼んだところで、あの人は引き受けてはくれないだろう。

(16) うちの夫は出世したところで課長どまりだろう。

また、逆接を表す「ところが」については、「のに」で言いかえられる逆接的な用法で、結果が予想・期待に反したものであることを表すとし、順接用法と異なり「が」は省略されないのがふつうである(p.329)と述べている。

(17) 親切のつもりで言ったところが、かえって恨まれてしまった。

2.1.4 接続詞用法

「ところ」は「ところで」「ところが」の形で接続詞として用いられる。グループ・ジャマシイ編(1998)では「ところで」は「これまでの話題とは別のものに話題を変更したり、いまの話題に関連することがらを付け加えたり、対比させて述べるような場合に用いる(p.333)」と述べている。

(18) 今日はお疲れ様でした。ところで、駅のそばに新しい中華料理屋さんができたんですけ

ど、今夜行ってみませんか。

「ところが」については、前文の内容から自然に予想されたり、期待されることに反したり、食い違う内容の文が続く場合や二つの事態が対比的関係に立つ場合に用いられる<反予測>と前文の内容から自然に予想されたり、期待されることに反したり、食い違う内容の文が続く場合に用いられる<発見>の用法を取り上げている(p.330)。<発見>の用法の「ところが」は「しかし、けれども、だが」などとは、置き換えられないのが普通で、仮に置きかえられた場合でも、別の意味を表す(p.331)と指摘している。

- (19) 天気予報では今日は雨になると言っていた。ところが、少し曇っただけで、結局は降らなかった。 <反予測>
- (20) 急いで家を出た。ところが、途中で財布を忘れていることに気がつき、あわてて引き返した。 <発見>

以上のように、本稿では「ところ」の用法を便宜上名詞的用法、文末用法、接続助詞的用法、接続詞用法に4分類し、考察を進めることにする。

2.2 「ところ」表現の習得に関する研究

「ところ」表現の習得に関する最近の研究には高橋ほか(2018)がある。高橋ほか(2018)では、「ところ」を含む機能語を中心に、名詞「ところ」の諸用法も含め、中国語と韓国語を母語とするJSL(Japanese as a Second Language)環境の日本語学習者がこのような表現を習得する際の問題について述べている。まず、「ところ」を含む機能語のうち、学習者にとって習得しやすいと推測されるものと学習者にとって習得しにくいと推測されるものを想定し、以前の考察に加えさらなる調査を行っている。この論文の結果では、学習者にとって使いやすくと予想した時間を表す「スルシテイルシタところだ」の用例や接続詞「ところで」は、中国語母語話者の学習者の例のみで韓国語母語話者の学習者の例には見られなかったことや「スルシテイルシタところだ」の用例は少なく、使いにくいと予想した事実条件文的な「~シタところ」の用例が多いという結果が見られたことなどが記述されている。

しかし、「ところ」表現の習得には日本語学習者に共通に見られる特徴もあるだろうが、学習環境によって習得状況が異なることもあると思われる。本文で後述するが、

JSL(Japanese as a Second Language)環境の韓国人学習者に見られなかった時間を表す用例や接続詞「ところで」などは、本稿の考察によるとJFL(Japanese as a Foreign Language)環境の韓国人学習者には見られるなど、本稿の結果は以上の考察とは何らか異なりが予想される。

3. 言語資料及び分析方法

本稿は形式名詞のうち、とりわけ「ところ」に注目し⁵⁾、名詞的用法をはじめ、そこから派生した様々な用法が学習者のデータにどのように産出されているかを調査し、JFL韓国人学習者に見られる使用状況を明らかにすることを目的としている。言語資料については、国立国語研究所のI-JAS(『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』(International Corpus of Japanese as a Second Language)の略)から短単位検察によって韓国人日本語学習者のデータと日本語母語話者のデータを抽出した。なお、I-JASの公開データの種類は次のようである⁶⁾(各例文の出典に記されている)。

<表1> I-JASの公開データの種類

		課題名	課題記号
対面調査	発話データ	ストーリーテリング1	ST1
		ストーリーテリング2	ST2
		対話	I
		ロールプレイ1	RP1
		ロールプレイ2	RP2
		絵描写	D
非対面調査	作文データ	ストーリーライティング1	SW1
		ストーリーライティング2	SW2
		メール1	m1
		メール2	m2
		メール3	m3
		エッセイ	e

5) 「ところ」の「とこ」「とこん」などの異形態も含む。
 6) <表1>はI-JASのマニュアル(https://chunagon.ninjal.ac.jp/static/2.4.5.1/ijas/I-JAS_Manual.pdf)の表に一部修正を施した。

本稿では「ところ」の用法のうち、とりわけ学習者が困難を覚えていると思われる接続助詞の用法と接続詞用法に注目したため、今回の調査では中級以上の韓国人学習者82名を分析対象とした⁷⁾。なお、日本語母語話者は50名である。「ところ」を含む表現については2節で述べたように大きく4分類し、その使用実態を観察した⁸⁾。まず、全データにおける韓国人日本語学習者(以下、学習者)と日本語母語話者の用例分布を示すと、次の表のようになる。

<表2> 韓国人日本語学習者と日本語母語話者の例に見られる「ところ」の用法

「ところ」の用法	韓国人学習者	日本語母語話者
名詞的用法	461(92.2%)	546(81.9%)
文末用法	12(2.4%)	39(5.8%)
接続助詞的用法	9(1.8%)	73(10.9%)
接続詞用法	18(3.6%)	9(1.4%)
合計	500(100%)	667(100%)

<表2>にもうかがえるように、両者ともに全体的に名詞としての「ところ」の使用率が極めて高い。それ以外の用法では、日本語母語話者は接続助詞的用法、すなわち複文の従属節としての使用の割合が高く、その次が文末用法であるのに対して、学習者の方は接続詞としての使用率が若干高い。これには接続助詞の使用率の低さに影響を与えている可能性

7) 本稿ではJ-CATが220点以上の中級以上のレベルである韓国人学習者82名を対象としている。

J-CAT	Proficiency Level	
1-	Beginner	初級前半
100-	Basic	初級
150-	Basic-High	初級後半
200-	Pre-Intermediate	中級前半
250-	Intermediate	中級
275-	Intermediate-High	中級後半
300-	Pre-Advanced	上級前半
325-	Advanced	上級
350-	Near Native	超級(母語相当)

8) 「I-JAS(International Corpus of Japanese as a Second Language)」において調査協力者のIDにあるKKRとKKDは韓国語を母語とする学習者を指し、調査協力者のIDがJJJで始まる場合は日本語母語話者の例である。発話表記は<C>が調査者の発話を、<K>が調査協力者の発話を表しており、本稿では<K>の発話を分析対象とする。なお、「I-JAS」の用例に含まれている言い直しやフィーラなどは考察に直接関わらない部分に関しては適宜修正を施した。

があることが示唆されていて、日本語母語話者の例とは異なる特徴を見せることが予想される。

以下では、諸用法における学習者のデータを観察することにするが、学習者の接続助詞的用法と接続詞用法の使用の特徴をより明確にするため、さらに4.2節ではストーリーテリング(発話データ)とストーリーライティング(作文データ)⁹⁾における使用状況を取り上げることにはしたい。

4. 韓国人学習者の「ところ」表現の習得

4.1 学習者の「ところ」表現の使用実態

4.1.1 名詞的用法

用法ごとに見ていくと、まず空間や部分を表す「ところ」は文の中で主語や補語として働く。このような名詞的用法では学習者の誤用はほとんど見当たらない。

- (21) <C>うーん、ソウルーのいいところはどこですか？
 <K>私が今、住んでいるところ (KKR11-I)
- (22) <C>へー、どんなところがいいんですかねー
 <K>あ、んー、一応、なんか便利なところがよくて、私は人に、会うのが好きなんで、田舎のほうは、あんまり、人に会う機会とかがないと思ひまして、 (KKD12-I)
- (23) <K> それでどうしようかと迷っていたケンハ、梯子を使って、えー二階の、んー、何だっけ、二階に、いるー、マリのところに、えー入ろうとしました (KKR58-ST2)

他の名詞や副詞について名詞句を構成する「ところ」表現、例えば「このところ」「結局のところ」や「いそがしいところ」のような固定した表現などは語彙レベルで習得することが多いためか、これらにも不自然な例はあまり見当たらない。

- (24) <K>あー、んー、あ、多い、多いー、方法が、ありますけどー、んー、んー、このとこ

9) ストーリーテリング(ST)とストーリーライティング(SW)は4~5コマのコマ割り漫画を見てストーリーを述べるタスクで、「ピクニック」と「鍵」の2種類があり、それぞれおよそ2~3分のデータである。

る、あこの一、ちゆ、あ主に、主に、地下鉄一、ていか、地下鉄を、利用して、うん、利用して、通学、しています (KKR19-I)

(25) <K>受かりまし、受かって、その時に、就職するか、進学するかけっこう、迷ったんですけど、結局のところ、あの奨学金がもらう、ようになって、進学に決めましたね (KKR40-I)

しかし、例(26)(27)のように、「ところ」の表す時間、状況の意味を「時」「頃」のような時間名詞やおおよその程度を表す表現と混同を起こし、一部の学習者に不自然な例が産出されている。

(26) <K>でもと、またも八月のところもかけっこう忙しい日程が続き重ねているので、続いて重ねているので、七月はまだ、でもやっぱり、あちこち呼ばれて、行くんじゃないかなーと思いますね (KKR40-I)

(27) <K>、六月の中旬ところに、まあ学期は終わりますけど、あの一、助教、きんもTAがありますから、TAのところもやらなきゃならないし、なんか六月の一、末? (KKR40-I)

4.1.2 文末用法

「ところ」は動作・変化の段階を表す表現として用いられる文末用法では、前接の形式によってある動作が始まる直前、ある動作が今まきに行われている最中であること、ある動作が終わった直後を表す。学習者と日本語母語話者の使用形式を見てみると、次のようになる。

<表3> 文末用法における前接形式

「ところ」の前接形式	韓国人学習者	日本語母語話者
動詞+タ形	2(16.7%)	4(10.2%)
動詞+テイル形	6(50.0%)	23(59%)
動詞+ル形	4(33.3%)	1(2.6%)
その他	-	11(28.2%)
合計	12(100%)	39(100%)

学習者の例を見てみると、文末用法ではほぼ産出につながっていて、割と習得しやすい文型ではないかと思われる。これには「ところ」の文末用法が初級の段階から登場する文法

項目であることも影響していると考えられる。

(28) <C>お、事件なんですね?

<K>はい、とーそしてー、えーと、家のー、えーと、左側には、バス停が、あってー、今あの二人が、バスを待って、今ちょうどバスに乗せようと、してるところです

(KKR38-D)

(29) <K>、家にもど、戻っています、家に戻っています てゆうか、帰るところです、家に帰るところでこのように、平和に見えますがー、あー、うん、ある家には、ある家では殺人事件が、起きています

(KKR28-D)

(30) <K>はい昨日は、私は、お酒が、ほんとに大好きなんでー授業が終わったばかりー、あ終わったところでーすぐに、お酒を飲みに行きました<C>そうですか授業何時までだったんですか?

(KKR24-I)

一方、日本語母語話者の例では、この他にも状況を説明するための文末表現が用いられていることが特徴的であった。例えば、「～たいところだ」「～というところだ」のような文型で、動詞のアスペクトの形以外の様々な形式と結び付けて使用されているが、このような表現は学習者の例には見当たらなかった。

(31) <C>あの好きなだけたくさんもらえとしたら、お金と時間と、どちらを選びますか?って
いう質問です

<K>これもむずかしいですねえ、あの、その間、自分のその細胞というか体が一切老化しないんであれば時間と言いたいところですが、ただ、なんか時々映画とかの、テーマにもなりますけど、じゃあ永遠の命が本当に幸せなのかって考えた場合、私は、お金のほうを選んで、(中略)今の質問だとお金ですね

(JJJ26-I)

(32) <K>そしてその家の上にはお猫さんが、あくびをし昼寝をしています 昼寝をして「いい天気ですね」というところなんでしょう そしていい天気、のところにええーバスを使って山にハイキング、ハイキングしようとしている人が二人います

(JJJ35-D)

4.1.3 接続助詞的用法

「ところ」の接続助詞的用法を観察してみると、学習者と日本語母語話者の例では次のような傾向が見られた。接続助詞的用法は中級の段階になってから学習する文法項目であるが、使用状況を見ると、日本語母語話者が73例(全体の10.9%)なのに対して、学習者は9例(全体の1.7%)にとどまっています。「Vたところ」の形式に偏りを見せている。以下で具体例を

見てみよう。

<表4> 接続助詞的用法の形式別の出現様相

接続助詞的用法		韓国人学習者	日本語母語話者
順接節	ところ	7(77.8%)	64(87.6%)
	ところで	-	4(5.5%)
	ところへ	-	1(1.4%)
	ところに	-	-
逆接節	ところで	2(22.2%)	3(4.1%)
	ところが	-	1(1.4%)
合計		9(100%)	73(100%)

4.1.3.1 順接節の場合

まず、順接節には「Vたところ」「V-たところで」「V-たところへ」「Vたところに」のように様々な文型があるものの、「V-たところ」が多く見られた。「V-たところ」は動作を表す動詞のタ形に付いて、後に続くことからの成立や、発見のきっかけを表す表現であるが(グループ・ジャマシイ1998 : 328)、適切な場面で使用できていることから、学習者にとっては習得しやすい文型の一つのように思われる¹⁰⁾。ただし、日本語母語話者の例では64例が見られたのに対して、学習者の例では7例のみであった。

(33) <K>ケンは、んー梯子ー、梯子を使って、部屋に入ろうとしま、しーしましたが、えとお
り通りかかった警官が、怪しがって、怪しがって、呼び呼びとめましたと、そこにマリ
が、起きて、説明をしたところ、警官は、安心して、帰りました (KKD09-ST2)

(34) <K>ケンとマリが地図を見て、ピクニックの場所を探しているところ、家にいる犬がサン
ドイッチを入れておいたバスケットにひっそり入ってしまいました。 (KKR40-SW1)

4.1.3.2 逆接節の場合

逆接用法においては次のような使用例が観察された。「ところで」の2例とも同一の調査協力者の発話であった。

10) 高橋(2018)では日本語母語話者が文体によっては「～シタところ」を使わないということが学習者に十分に習得されていない場合は、学習者によって比較的過剰に使用されるとも考えられると指摘している。

(35) <K>妹がかなりの勉強一、あまがり勉系なんで一、結構

<C>成績がいい?

<K>成績、いいしーまあまっとうな道しか歩かないみたいな感じの子なんで一、自分と真逆のタイプで一、結構こう、今から勉強したところでもう、したところで仕方がないじゃんかってなって一、まああの一、結構あんまり、こう勉強には進まないってゆう感じだったんですね(KKD27-I)

学習者の例では接続助詞的用法かどうかという判断が困難な場合が多く¹¹⁾、中上級になってもあまり適切な使用につながっていないことも多いため、接続助詞としての「ところ」表現は学習者にとっては定着が難しい文法項目の一つではないかと考えられる¹²⁾。

4.1.4 接続詞用法

<表2>からも分かるように、文末用法や接続助詞的用法では日本語母語話者の割合が高かったのに対して、接続詞用法では学習者の方が若干高かった。また、接続詞には「ところが」と「ところで」があるが、「ところで」の使用においては誤用が見られた。

<表5> 接続詞用法の出現様相

接続詞用法	韓国人学習者	日本語母語話者
ところで	5(27.8%)	1(11.1%)
ところが	13(72.2%)	8(88.9%)
合計	18(100%)	9(100%)

11) 学習者の例では「ところ」が名詞なのか、接続助詞なのかの判断が困難な場合がある。本稿では「ところ」が空間や時間的情況を表し、文中の補語として働く場合には名詞的用法、従属節を導くと判断される場合は接続助詞的用法として扱うことにする。次のような例では「ところを」「ところで」「ところに」を「見つける」「見つかる」「着く」の補語として用いられていると判断した。

・<K>ん一、梯子一、を、持ってきたケン一、は、梯子で、二階の部屋から、入り込もうとしていました、ところを、警官が見つけて、泥棒だと誤解して、ん一、どうゆうことなのかを聞きました

(KKR21-ST2)

・<K>ケン一は仕方なく梯子を使って二階からうちに入ろうとしましたが、そのところで警官に見つかってしまいました。逮捕されるかと思いましたが、マリが起きたのでよく解決しました。

(KKR22-SW2)

・<K>何も知らない二人は休日のピクニックを楽しみながら、近所の公園に来ました。そして、弁当を食べようと思っていたところに着きました。二人は期待しながらバスケットを開きました。

(KKR28-SW1)

12) 水谷(1993:89)では「学習していても、とっさの場合にはそれを使わないのは、習熟の程度の問題もあるが、学習者の母語と関係が深く、母語に同様な表現がない場合にこうした現象が起りやすいことが観察される」と述べている。

次の例は学習者の「ところが」の例である。「ところが」は前文と後続文の逆接関係を表す接続詞として使用されている。接続詞は語彙レベルで導入されることが多く、韓国語「그러나」「그런데」との対応関係で覚えさせることになりやすい。そのためか「ところで」の例では不自然な例が観察されている。例(37)では「ところで」と「ところが」を混同した可能性がある。

(36) <K>ケン is 仕方なく、庭にある梯子を使って開けっぱなしである二階の窓からの侵入を試みましたが、その姿を見た隣人が不審者だと思ったからでしょうか、警察に捕まるところが、その騒ぎで目を覚めたマリが外を見てケンの疑いを晴らし、このことはただのハプニングで終わりました。(KKD11-SW2)

(37) <K>それで、ケン is 梯子をつか、梯子梯子を、使って一、家の中に入る入ろうと、思いました、はいところで、警官の人が、ケンに一、んーケンを見て、ケンに話しかけましたその時マリが、お起きて一、警官の人に、あー、ケンを見てこの人は泥棒じゃないって一、話を、して、警官の人が、はい、理解して、はい、終わりました (KKD47-ST2)

4.2 STとSWにおける使用状況

以上4.3節と4.4節で述べたように、学習者と日本語母語話者の例では「ところ」の接続助詞的用法と接続詞の使用において相違が見られた。本節ではこの二つの用法の使用状況をより詳しく観察するため、複文や接続詞が用いられやすいタスクであるストーリーテリング(ST)とストーリーライティング(SW)のデータを比較した。ストーリーテリング(ST)とストーリーライティング(SW)は4-5コマのコマ割り漫画を見てストーリーを述べるタスクで、ストーリーライティング(SW)はストーリーテリング(ST)実施から約40-50分後に実施したものである。これらを調査することによって、両者を同一のタスクにおいて比較することができると思われる。調査結果を示すと次の表のようになり、全体の使用傾向(表2)と同様、学習者と日本語母語話者のデータの間には多少の違いが観察された。

<表6> ST(発話データ)とSW(作文データ)における「ところ」表現の使用状況

		名詞的用法	文末用法	接続助詞的用法	接続詞用法	合計
韓国語学習者	ST	16(61.5%)	1(3.9%)	3(11.5%)	6(23.1%)	26(100%)
	SW	20(58.8%)	2(5.9%)	3(8.8%)	9(26.5%)	34(100%)
日本語母語話者	ST	11(20%)	1(1.8%)	37(67.3%)	6(10.9%)	55(100%)
	SW	3(10%)	-	25(83.3%)	2(6.7%)	30(100%)

<表6>にもうかがえるように、ST(発話データ)とSW(作文データ)のいずれにおいて、日本語母語話者は「ところ」の接続助詞の複文形式を用いる傾向があるのに対して、学習者の場合はそうではなかった。つまり、ストーリーを述べるタスクにおいても、学習者の例では「ところ」の含む複文形式があまり使用されていないことがわかる。

まず、次の発話データの場合を見てみると、日本語母語話者と大きな違いは見当たらないが、学習者の例では接続詞「ところが」「ところで」を使用したり、初級段階で学習した「が」「ので」のような比較的使いやすい接続助詞を用いたりしている(「ところ」表現以外の形式は二重線で表示)。

<ストーリーテリング(ST)の場合>

[日本語母語話者の例]

(38) <K>バスケットを持ってえー、ケンとマリが、えー出かけてる、えーピクニック場所に出かけています えー、ピクニック場所で、えー、バスケットの中のサンドイッチをえー、食べようとしているところで、えー、犬が、えー、飛び出しました 中からバスケットの中から出ました えー、で、バスケットの中を確認して、あーと、お昼、サンドイッチを食べようと確認したところ、えー犬が、えーと、食べて、えー、残りかすだけになって、いました (JJJ56-ST1)

(39) <K>玄関先から、呼んでも一向に、その声に気づきません で、そのうちに、えーケンは、しょうがないと、えー裏から梯子を出して、二階の自分の部屋からあー入ろうと思ったところ、なんとお巡りさんがやってきてー、えー、「こらこら君何やってんの」と、職務質問されてしまいました で、えー、「いや、弱ったな」と言ったところでー、んと一なんとま丁度よくマリが、その物音に気づいて、「あ、それはうちの主人です」と、いうことであお巡りさんも、「あ、そうなんですか」と、ということで一件落着きました、 (JJJ49-ST2)

[学習者の例]

(40) <K>マリとケンは、地図を見ながら、どこへ行くかを決めていました そのうち、あの一、犬が、バスケットの中にはい、入り込んだじゃいました そのことを知らずー、マリとケンは、あの二人で仲良く一手を繋いで、ピクニックに行きました ところで、あの一、あの一、ば、バスケットを開けた瞬間、犬が、あん、飛び出しちゃいました あん中であったーりんごとかサンドイッチは、全部、犬に食べられてしまった状態でしたので、マリとケンは、がっかりしています (KKR21-ST1)

(41) マリさんを、さ、おき、起こそうと叫びましたが、マリさんはそれを知らずにずっと寝ていますそれで、ケンは梯子を使って、二階に上ろうとしていましたが、それを警官、んー、警察官に、発覚され、注意されますんー、ところが、幸いにマリさんがその時、起

きて、窓側から、んー説明したようで、誤解が、なくなったみたいです (KKD08-ST2)

一方、次の作文データを観察してみると、日本語母語話者の例では「~たところ」のほかに順接条件節「~と」¹³⁾を使用するなど、主節の動作が行われる状況を設定する「ところ」や他の複文形式、接続詞を適切に運用しているのに対して、学習者の例では単文をつなぐための接続詞の使用が多く観察された。

<ストーリーライティング(SW)の場合>

[日本語母語話者の例]

(42) <K>ケンとマリが地図を見ていると、バスケットに犬が飛びこみました。ケンとマリは犬がバスケットに入ったことに気づかないまま、公園にピクニックに出かけました。公園についてバスケットを開けてみると、バスケットから犬が飛び出しました。ケンとマリがバスケットを覗いたところ、せっかく作ったサンドイッチが全部犬に食べられていました。

(JJ12-SW1)

(43) <K>二人はそれに気付かずバスケットを持ってピクニックに出かけました。そして、お昼になりサンドイッチを食べようとバスケットを開けると、なんと飼っている犬が飛び出てきました。二人はびっくりして中を見たところ、サンドイッチが全部なくなっていました!

(JJ16-SW1)

(44) <K>夜遅くに帰宅したケンは、家の鍵を開けてもらおうとドアフォンを押しましたが、マリはすでに寝てしまっていてそれには気がつきませんでした。(中略)仕方なくケンは外から梯子を二階へかけ、二階の窓から家に入ろうとしていたところ、通りがかった警官に見つかり怪しまれてしまいました。ケンが警官に事情を説明していたところ、マリが起きてきて警官も納得しました。大変な思いをしたケンでした。

(JJ46-SW2)

[学習者の例]

(45) <K>マリとケンは作ったサンドイッチをピクニックバスケットに入れて、ピクニックに出かけようとしていました。ところが、マリとケンが場所を探しに地図を見ている間、二人が飼っていた犬がピクニックバスケットに入ってしまった。そして、マリとケンはそれに気づかず、そのままそのバスケットを持って、出かけました。ピクニック場に着いた二人は、作ったサンドイッチを食べようとバスケットを開けます。すると、その中から隠れていた犬がぱっと出てきました。

(KKR03-SW1)

(46) <K>ケンはうちの鍵を持っていませんでした。それでベルを押しますが、家の中から反応

13) 主体の連続する動作を表す場合、テ形との違いは「と」が主節の動作を行う状況を設定する点である(日本語記述文法研究会編(2008:108))。

がなかったのです。その時マリは二階の寝室で寝ていたので、ケンが呼んでも聞こえなかったのです。何回呼んでもマリの反応がなく、ケンは梯子を使って二階の空いている窓から家に入ろうとした所、警官がそのところを見てしまいました。その後マリが起きて警官に事情の説明をしてくれて誤解が解けました。(KKR20-SW2)

(47) <K>ケンはうちの鍵を持っていませんでした。ところが、ケンは帰宅が遅くなってベルを鳴らしても家の人は気づいてないです。それで、ケンは窓側で大声で叫んでみますが、マリはぐっすり寝ていて起きないです。仕方なくケンは梯子を使って二階の部屋に入ろうとしましたが、警官に見られて誤解を受けます。ところが、ケンが事情を話している途中、マリも起きて窓側で顔を出して警官を安心させています。(KKD08-SW2)

(48) <K>ケンは家にはいるはずのマリを呼びかけましたが、マリは寝ていたので、ケンは家に入れませんでした。その途端、ケンは家の外にある梯子を見つめて、それを利用して家に入ろうとしました。ところが、梯子を使って家に入ろうとする光景を警官に見つかってまじいことになりました。でも、マリが事情を説明してくれて、結局ケンの疑いは晴れました。(KKR33-SW2)

学習者の例(45)~(48)を見ると、発話データと同じく初級段階で学習した接続助詞「が」「の」でも使用されているが、その他に単文をつなぐための接続詞(「そして」「すると」「それで」「でも」など)の過剰使用も見られる。これには他にも理由があるだろうと思うが、ストーリーを述べる作文において学習者の場合は状況を描写するというより出来事を因果関係で展開させる述べ方をしやすく¹⁴⁾、事態の状況を効果的に説明する能力がまだ身につけていないことを示唆しているのだろう。中級以上のレベルでの複文形式の指導が求められると考えられる。

以上からわかるように、「ところ」の接続助詞表現は学習者の例ではあまり産出につながっていないことがわかる。接続助詞的用法は中級レベルで導入されるもので、調査対象の中級以上のレベルの学生は既に学習している文法項目である可能性が高い。そのため、以上のような結果は、これらの形式があまり使用に至っていないことから非用¹⁵⁾とみるべき現象であるように思われる。それには「ところ」の接続助詞形式の代わりに割と習得しやすい類義表現や接続詞を使用することや韓国人学習者の事態の述べ方の特徴など様々な要因がかかわっていると考えられる。

14) 学習者の接続詞使用の特徴はテキストの文体によって異なる可能性があり、さらなる考察が求められる。

15) これは水谷(1993)の用語で、「学習していながら使用にいたらない表現形式」を「誤用」に対して「非用」となづけている。

5. おわりに

本稿では、I-JASのデータをもとに中級レベル以上のJFL韓国人学習者を対象にして「ところ」表現の使用実態を調査し、日本語母語話者の例との比較から学習者の「ところ」表現の運用上の問題点などを明らかにした。分析の結果、学習者が産出する「ところ」表現には次のような特徴があることが明らかとなった。

「ところ」は名詞的用法としての使用が圧倒的に多い。ただし、「ところ」の時間の意味と時間名詞「時」「頃」との混同が見受けられる。

「ところ」の文末表現は学習者にとって割と使いやすい形式であるが、日本語母語話者に比べてバリエーションが少ない。

ストーリーを述べるタスクでは、発話データと作文データのいずれにおいても日本語母語話者に比べ接続助詞表現の使用の割合が低い。「ところ」の接続助詞表現は定着しにくい文法項目の一つと言えそうであり、このような学習者の非用現象は作文における接続詞の過剰使用につながる可能性があることを示唆している。

形式名詞を用いた多様な文型は学習者の表現力を高める上で重要な学習項目であるものの、学習者にとっては習得が困難である。名詞的用法では学習者の例には「時」「頃」との混同が見られるため、「ところ」の時間的意味を単に時間名詞の類義表現として指導するのは学習者の誤用を起こす可能性がある。また、中級以上のレベルでは、学習した表現が実際の運用につながるようにするため、各用法の習得だけでなく「ところ」表現の接続助詞的用法を中心に用法間の比較ができるような適切な練習と複文指導が必要であると思われる。なお、本稿の考察を通して、学習者の誤用だけでなく、非用にも注目する必要があることが示唆された。

今後、学習者が「ところ」表現をレベル別にどう学習しているのか、「ところ」表現のほかにもどのような形式を代替しているのかなど、学習者の習得様相についての考察も必要になるだろう。また、本稿の考察結果を踏まえ、他の形式名詞についても続けて検討していきたい。

【参考文献】

- 市川保子(2011)『中級日本語文法と教え方のポイント 韓国版』인문사、pp.467-468
グループ・ジャマシイ編(1998)『日本語文型辞典』くろしお出版、pp.327-335
砂川有里子(2000)「空間から時間へのメタファー—日本語の動詞と名詞の文法化—」青木三郎・竹沢幸一編『空間表現と文法』くろしお出版、pp.105-140
高橋雄一ほか(2018)「日本語学習者による「ところ」を含む機能語の習得について」『専修国文』102、専修大学、pp.23-39
寺村秀夫(1993)『「トコロ」の意味と機能』寺村秀夫論文集』くろしお出版、pp.321-336
日本語記述文法研究会編(2008)『現代日本語文法6第11部複文』くろしお出版、pp.108-109、pp.151-152、pp.225-229
黄允實(2020a)「「V(-タ)トコロデ」の逆接の意味と構文的制約—時間節との関係を中心に—」『日本学研究』59、檀国大学校日本研究所、pp.115-139。
_____(2020b)「<逆接>を表す「V(-タ)トコロデ」と「V(-タ)トコロガ」—順接用法とのかかわりからみた比較—」『日本研究』83、韓国外国語大学校日本研究所、pp.215-236
_____(2021a)「「トコロへ」の意味用法—名詞用法から接続助詞的な用法へ—」『日本研究』54、中央大学校日本研究所、pp.111-130
_____(2021b)「名詞句を構成する「ところ」に関する一考察—前接語の特徴とその用法を中心に—」『日本語文学』94、日本語文学会、pp.303-323
前田直子(2009)『日本語の複文—条件文と原因・理由文の記述的研究—』くろしお出版、pp.18-19、pp.225-229、p.235
水谷信子(1993)「「非用」と談話の展開」『日本語学』12-9、明治書院、pp.88-96
粕山洋介(1992)「多義語の分析—空間から時間へ—」カッケンフッシュュ寛子他編『日本語研究と日本語教育』名古屋大学出版会、pp.185-199

<言語資料>

国立国語研究所『多言語母語の日本語学習者の横断コーパス：I-JAS』(中納言2.4.5データバージョン2021.05)
(閲覧日：2021/08/31)

논문투고일 : 2021년 12월 31일
심사개시일 : 2022년 01월 16일
1차 수정일 : 2022년 02월 07일
2차 수정일 : 2022년 02월 18일
게재확정일 : 2022년 02월 22일

 <要旨>

学習者の「ところ」表現の習得に関する一考察

- JFL 韓国人学習者の使用実態を中心に -

黄允實

本稿は I-JAS のデータをもとに中級レベル以上の JFL 韓国人学習者を対象にして「ところ」表現の使用実態を調査し、日本語母語話者の例との比較から学習者の「ところ」表現の運用上の問題点などを明らかにしたものである。分析の結果、学習者が産出する「ところ」表現には次のような特徴があることが明らかとなった。

- ① 「ところ」は名詞的用法としての使用が圧倒的に多い。ただし、「ところ」の時間の意味と時間名詞「時」「頃」との混同が見受けられる。
- ② 「ところ」の文末表現は学習者にとって割と使いやすい形式であるが、日本語母語話者に比べてバリエーションが少ない。
- ③ ストーリーを述べるタスクでは、発話データと作文データのいずれにおいて日本語母語話者に比べ接続助詞表現の使用の割合が低い。「ところ」の接続助詞表現は定着しにくい文法項目の一つと言えそうであり、このような学習者の非用現象は作文における接続詞の過剰使用につながる可能性があることを示唆している。

形式名詞を用いた多様な文型は学習者の表現力を高める上で重要な学習項目であるものの、学習者にとっては習得が困難である。実際の運用につながるように、中級以上のレベルでは他の類似表現との比較を通じた各用法の習得だけでなく、「ところ」表現の接続助詞的用法を中心に用法間の比較ができるような適切な練習と複文指導が必要であるように思われる。

On the Usage of TOKORO Expressions by Korean Learners of JFL

Huang, Youn-Sil

This study examines Korean Japanese learners' usage of TOKORO expressions and investigates learners' errors by using the International Corpus of Japanese as a Second Language (I-JAS). Compared to Japanese native speakers, the Korean learners in a JFL environment have the following characteristics in their use of TOKORO expressions.

- 1) TOKORO is overwhelmingly used as a noun. However, there is some confusion between the temporal meanings of TOKORO and TOKI or KORO.
- 2) An end-of-sentence expression is relatively easy to use but there is little variation in the use of it compared to native speakers of Japanese.
- 3) In the task of their storytelling and story writing, the ratio of the use of conjunctive particles is lower than that of native speakers of Japanese. It is one of the grammatical items that are difficult to acquire and learners' instances of non-use of conjunctions can lead to overuse of conjunctions in compositions.

Although various sentence patterns using formal nouns are important items to learn for enhancing learners' expressiveness, they are difficult for learners to learn. At the intermediate level and above, it is necessary to practice example sentences and provide appropriate guidance so that it will lead to the actual usage of conjunctive particles in learners' output.